

すぎくほかまさか

(仮)杉久保釜坂遺跡

(海老名市No.89 遺跡)

調査期間 20070402～20070815

所在地 海老名市杉久保地内

時代
旧石器時代
縄文時代
奈良・平安時代



作成日:20070730

概要

(仮)杉久保釜坂遺跡は海老名市の中央部、第一東海自動車道(東名高速道路)の海老名サービスエリアの南西に隣接し、南西約300mには杉久保内藤原遺跡(90)が所在し、その西側の崖面には、杉久保内藤原横穴墓群(61)が隣接しています。遺跡からは、北東に海老名サービスエリアが、西には相模川に連なる低地の田園の向こうに大山、富士山が、南西には、低地の向こうに大磯丘陵の先端部を眺めることができます。

地形面としては相模野台地(武蔵野面)に含まれ、標高は約28～32mです。

本遺跡では、主に竪穴住居址や掘立柱建物など古代の遺構群が多数発見されており、集落として理解できます。本遺跡の周辺では、上述したとおり、杉久保内藤原遺跡や杉久保内藤原横穴墓群(61)が展開しています。これらの横穴墓群は東名高速道路をはさんだ南側にも、杉久保土合横穴古墳群(84)として展開していたようです。また、東側の台地上には、大谷真鯨遺跡(60)や大谷向原遺跡(77)など、古代の集落遺跡が存在しており、また、さらに南東の杉久保遺跡や杉久保蓮谷遺跡では、古代の遺構群のほか、縄文時代の遺構群も確認されています。



▲A区 竪穴住居址遺物出土状況



▲B区 竪穴住居址

本調査は、中日本高速道路株式会社横浜支社横浜保全・サービスセンターによる、第一東海自動車道(東京～小牧)海老名SA(上り線)減速車線延伸事業に伴う埋蔵文化財調査です。



▲C区 掘立柱建物